

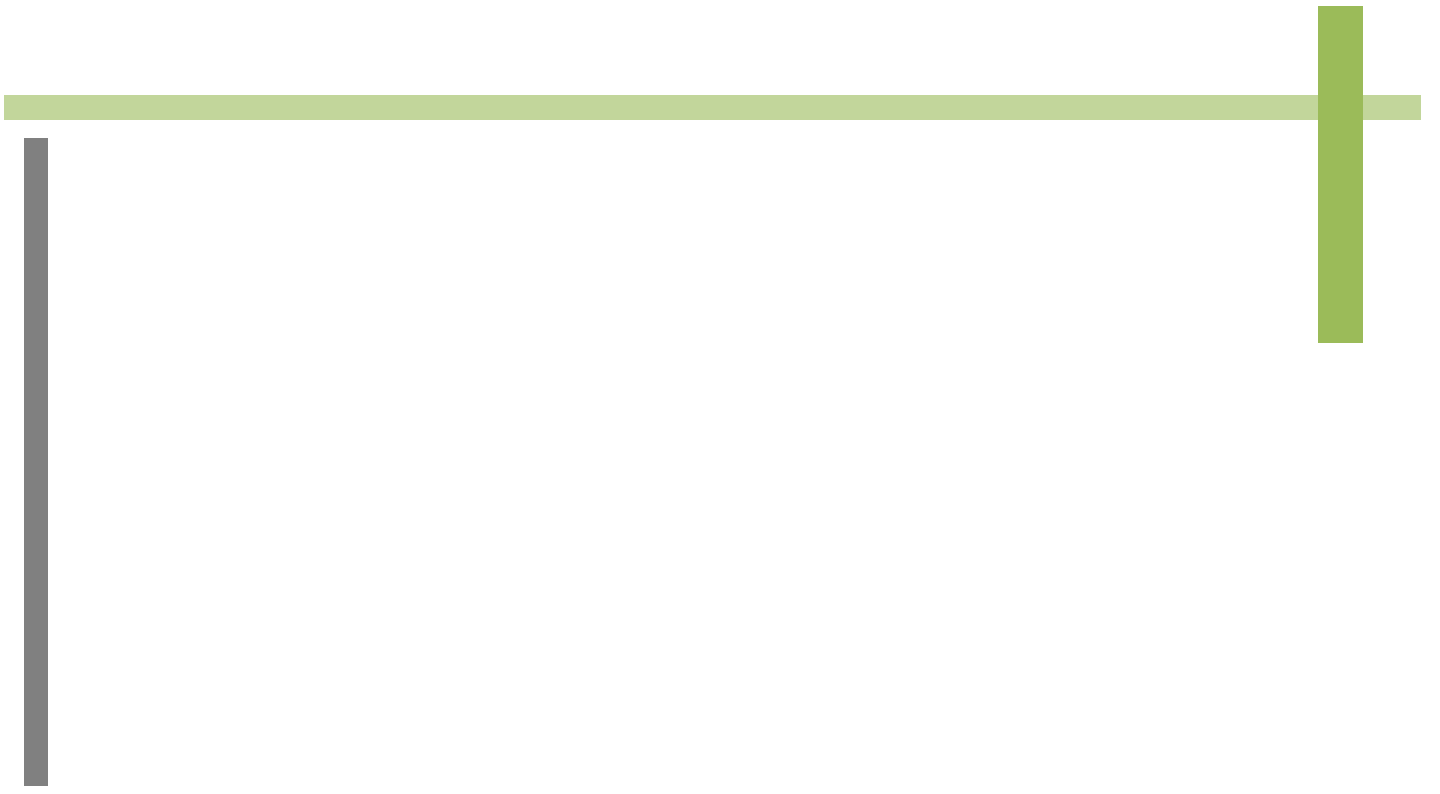
# 2012 年度事業報告書・2013 年度事業計画書



認定NPO法人

多文化共生センター東京

Multicultural Center TOKYO



## 2012 年度を振り返って

2012 年度は荒川区三河島の旧真土小学校を使える最後の年、6 年間お世話になりました。2011 年東日本大震災時、ちょうど授業中で校舎は大揺れに揺れ 3 階から階段を伝って避難するときは危険も感じましたが、校舎自体は全く無事でした。しかし、この地震で結果的には耐震工事をしていなかった旧真土小学校は閉鎖することになりました。旧真土小学校は生徒や先生方はもちろん、教育相談や見学にいらっしゃる方々のご案内も、駅から近くてわかりやすく大変助かりました。また、今年度は企業からのご支援も多く、一緒にスポーツやワークショップをする機会がたくさんありました。そんな時会議室やグラウンド、体育館等も借りやすく、校舎自体が古いということを除いては実に使い勝手のよい素敵な学び場でした。荒川区教育委員会には大変お世話になりました。

2012 年度は生徒数も回復しました。年度を通してみると中国とフィリピンから来日した生徒が多いですが、少数言語の生徒が増えました。荒川本校はネパール・タイ・ミャンマー・インド・イラン・ペルー・コロンビアです。日本国籍の生徒もいます。同じ外国からきた生徒でも少数言語の生徒は、多文化でもマイノリティで寂しい思いをしがちですが、それにも増して手元に辞書がなく、語彙を理解するときもハンディが大きく、少数言語の辞書の必要性を感じる一年でした。新宿校も少数言語の生徒が多くいました。ポーランド・リトアニア・ミャンマー・タイ・ボリビアです。ただこちらは英語や日本語が多少できる生徒がいたので、共通言語である日本語や英語でみんなともつながっていたようです。

子どもたちの高校進学については、荒川本校で学んだ生徒 2 名が、来日期間が短かった等の理由でもう一年当スクールで学ぶこととなりましたが、両校合わせてほぼ去年並みの 46 名が進学を果たしました。ただ、選択できる高校数が限られているため、一度失敗すると希望する進路とかけ離れた学校しかなく、結果的には入学辞退した生徒もいました。都立高校は倍率が高いうえ大部分が 5 教科受験であり、高校の選択枝が少なすぎることを痛感させられた結果でした。また、経済的な問題を含め、高校進学を諦めた生徒が何名かいました。高校中退の知らせも何人かから受けました。多文化卒業後自立したい。家を出たい。早く働きたい。前向きに考えながらも定職につけず、アルバイトでがんばる子どもたちの経済面はなかなか好転しません。何人もの子どもたちの実情を見て高校進学問題が好転しているといえないままに、次は職の問題だということがより明確になった 1 年だともいえます。

最後に、多文化共生センター東京の組織運営について、新しい試みがありました。今年度荒川本校移転に伴い、スタッフと講師・ボランティア有志と一緒に場所探しに取り組むスタートアップ会議をつくり、移転についての全体的な取り組みをしました。12 月に第一回会議が開かれ、計 4 回のスタートアップ会議で、さまざまな内容を共有、決定し理事会で承認されました。場所探しミーティングは 3 月に解散しましたが、新年度もスタッフと各プロジェクト代表による実行委員会を開催する方向を確認しました。

多文化共生センター東京代表理事 王慧樺

# 2012 年度事業報告

## 外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業

### ■たぶんかフリースクール

日本の中学校に入れず、学ぶ場や居場所のない子どもたち（学齢超過生と中学卒業生）や、来日期間が浅く日本語の初期指導を必要とする子どもたちに対し、毎日通学し日本語や教科学習ができる学びの場と居場所を提供すること、最終的に高校進学につなげることを目的とし実施した。

また、不就学や不登校の子どもたちを公立学校に、学齢超過の子どもたちを高校進学につなげるための「虹の架け橋事業（定住外国人の子どもの就学支援事業）」（※以下「虹の架け橋教室」）を受託し、一部授業を行った。



### ◆本校・新宿校

生徒数：51名（本校 38名 新宿校 13名）

高校進学者数：46名（来年度継続 2名 不受験 2名 辞退者 1名）

講師数：本校 担任 4人 講師 18人（日本語・教科等） 新宿校：担任 2人 講師 11人

内容：子どもたちのための日本語指導と教科指導・高校進学のためのケア

	午前クラス（火～金）	午後クラス（火～金）	夜クラス 週4
本校	午前 10:00～11:50	午後 13:00～16:50	18:00～19:50
新宿校	午前 10:00～11:50	午後 13:00～16:50	

### ◆昼クラス（午前・午後）

学齢超過の子どもを主対象に、日本語の読む、書く、聞く、話す、読解力・思考力などの力を伸ばすこと、また、高校入試を視野に入れた日本語、教科学習（英語・数学など）、作文・面接指導などの高校入試サポートを行った。8月の夏季集中講習は昨年と同様、たぶんかフリースクールに所属する生徒以外で昼間の公立中学に通う中学3年生も参加し、昼夜クラス合同で授業を行った。

### ◆夜クラス：

中学校3年の受験生を主対象とし、高校受験に向けて日本語や教科（英語・数学）を学んだ。本校では荒川区「ハートフル日本語適応指導（補充学習指導）」対象生徒（小学5年生～中学3年生）の日本語指導も行った。

## ■ハートフル日本語適応指導事業

通室による日本語初期指導 9:00-12:00 週4日・3ヶ月

荒川区「ハートフル日本語適応指導（通室による初期日本語指導）」対象生徒たちが日本語を学んだ。

初期日本語修了後の補充指導 17:30~20:00の2時間 週3日・2ヶ月

荒川区「ハートフル日本語適応指導（補充学習指導）」対象生徒たち（小学5時間～中学3年生）が日本語・教科を学んだ。

## ■「虹の架け橋事業（定住外国人の子どもの就学支援事業）」

（文部科学省の拠出を受けた国際移住機関（IOM）から受託）

今年度より学齢超過の子どもたちも積算対象となり、学齢超過の子どもたちは前半（4月～7月）2時間、後半（8月～3月）は3時間の授業を「虹の架け橋事業」で行い、自主事業と合わせて最大で1日6時間授業を行った。義務教育段階の不登校・不就学の子どもたちは最大で5時間、「虹の架け橋事業」で授業を行い、3ヶ月を目途に在籍校につなげた。

義務教育段階の不就学・不登校、学齢超過の子どもたちが、日本語や教科（英語・数学）、高校入試のサポートを受け、公立中学校に13名、公立高校に29名、インターナショナルスクールを含む私立高校に3名が入学した。

## ■部会（教科会・進路部会・勉強会）

講師間の情報の共有化、教育内容の充実に向けて3部会を開催した。

- ・教科会（日本語・英語・数学）では、生徒の学習状況や指導法、クラス編成等について話し合った。
- ・進路部会では、高校受験に必要な情報を入れた進路冊子を編集作成した。
- ・勉強会では主に日本語会話授業についての勉強会を実施した。

## ■キャリア教育プログラム

たぶんかフリースクールでは、企業のご支援を受けて、生徒が将来の夢を考え、次の進路に実際につなげる「キャリア教育プログラム」を実施している。

### ◆ギャップ財団

2008年よりギャップ財団から支援を受け、「キャリア教育プログラム」を実施している。このプログラムにより、本校担任3人、新宿校2人を採用することができ、以下のキャリアイベントを行うとともに、生徒や保護者との面談（10月二者面談・12月三者面談）、進路に関する作文のほか、高校見学や説明会への生徒の引率、日々の生徒対応、受験指導などきめの細かいサポートを行うことが出来た。

- ・8月28日 ギャップジャパン本社で職場体験  
ギャップジャパンの本社にて職業体験を行なった。  
社員がどんな仕事をしているかの説明やキャリア  
ヒストリーなどをうかがった後、ギャップのロゴをつ  
くるデザインも体験させていただいた。（生徒参加者37名）



子どもたちの作ったギャップのロゴ

・11月9日・16日 店舗で職場体験

都内のギャップジャパンの店舗数店に分かれて、仕事を体験。担当者から店舗での仕事の説明を受けた後、実際に売り場の掃除や、洋服をたたむなどのバックヤード作業、自分の選んだコーディネートでマネキンをデコレーションするなどの体験を行った。(生徒参加者 41 名)

#### ◆セールスフォース・ドットコム

10月25日 セールスフォース・ドットコムの社員ボランティアが来校し、約2時のキャリア授業を実施した。前半に日本・フィリピン・アメリカの社員3人から進学や就職についての体験をうかがった。後半、全クラス合同で雑誌などの切り抜きを使い「将来の夢」のコラージュ作成と交流会を実施した。

(生徒参加者 30 名)

#### ◆UBS

11月2日に UBS オフィスを訪問した。UBS の社員ボランティアからスイスのプライベート・バンクの成り立ちから、UBS の歴史、企業・ブランド構築について学ぶ。また、UBS 銀行ウェルス・マネジメント・ジャパン CEO のビクター・チャング氏からキャリアヒストリーを伺った。その後、ビデオ会議で香港とシンガポールとつなぎ、UBS ウェルス・マネジメント アジア太平洋地域で投資戦略を統括するプ・ヨンハオ氏からもメッセージをいただいた。UBS 午後には UBS のご招待で現代アートを扱う品川の原美術館で多国籍のアーティストの作品を鑑賞した。(生徒参加者 38 名)

### ■ 教育相談

主に電話およびセンターでの面接による相談で、来校での相談件数は本校 90 件、新宿 22 件、合計 112 件の教育相談に対応した。相談内容は高校進学及び日本語や教科指導についての相談が多いが、子どもの来日前での相談、学齢期の子どもについての相談も増えている。市区国際交流協会などが実施する「リレー専門家相談会」に教育に関する専門家相談員を2回派遣した。

### ■ 教育支援基金・たぶんか子ども基金

2009 年度より、継続的に UBS 様から「教育支援」としてご寄付をいただき、経済的な理由から授業料を負担することのできない家庭の子ども達の授業料を支援している。

また貧困家庭増加の背景と自助努力による寄付集めを目的として「たぶんか子ども基金」を立ち上げ、広く一般から寄付を募った。初年度の 2012 年度は 100 万円の目標に対し 39 万円のご寄付にとどまった。授業料の補填は、UBS 様からの拠出に占める割合が多く、2013 年度は、自助努力でさらに多くの寄付を集めることが課題である。

### ■ 調査活動

現在 2011 年度進路ガイダンスでのアンケートをもとに、学齢超過の日本籍受験生に焦点を当てた報告書を作成中。

## ■ 日本語を母語としない親子のための多言語高校進学ガイダンス

武蔵野市国際交流協会、ピナット、OCNET、IWC、八王子国際協会、CCS、多文化共生教育研究会、多文化共生センター東京、CTICの9団体による実行委員会で多言語による高校進学ガイダンスを開催した。

### ◆開催日・場所：

6月24日（文京）、7月8日（武蔵野）

7月16日（大田）、10月7日（品川）

10月21日（荒川）、10月28日（八王子）

（うち文京と荒川の2回の事務局を当センターが担当）

6月24日には75名、10月21日には49名、6回あわせて358名の参加があった。（2011年度は6回合計で385名）ガイダンスでは、日本語を母語としない中学生や学齢超過の子どもとその保護者に対して、学校制度や高校進学についての具体的な情報を提供すると同時に、ボランティアやNPOによる学習支援等につなげ、ガイダンス後のフォローも行った。

その他、新宿区未来創造財団が単独で2回のガイダンスを実施し、うち1回の運営を当センターが受託した。2012年1月19日には高校進学ガイダンス主催者交流会が神奈川県で行われ、当センターからも交流会に参加した。



## ■ 子どもプロジェクト

### （ボランティアによる日本語と教科の学習支援と居場所づくり）

週に一回、ボランティアベースでの日本語と教科の学習支援を基本的に個別対応で行い、受験期には面接練習などのサポートも行った。また、企業や大学からのボランティアの受け入れ先としても機能した。

日時：毎週土曜日－15：30～17：30

参加人数：約60人（合計）

ボランティア人数：約50人

※1回の参加者数子ども10～30人

ボランティア10～20人



## ■ 多文化内部企画

フリースクール講師・土曜ボランティア、企業の協力で、校外学習やイベントなどの行事を行った。

### 1. 7月12日 避難訓練

全生徒を対象に避難訓練を行った。また、耐震車体験や地震時の安全な避難方法についての指導を荒川消防署から受けた。



耐震車体験

### 2. 8月30日 スポーツスタッキング大会

UBS様からスポーツスタッキングのセットをいただき、スタッキング大会を行った。夏休み中から練習を開始し、準備や進行は生徒が積極的に進めた。フリースクール生や親子プロジェクトの小学生が参加し、団体戦で競い3位までの入賞者には、賞品が送られた。

### 3. 9月17日 東京タワー・ANA整備工場見学

荒川本校、新宿校合同で、東京タワーとANA整備工場を見学した。ANA整備工場では、ボーイング機などを間近に見学することができた。

### 4. 12月17日 クリスマス会

フリースクール生や子どもプロジェクトの学習者を中心に、卒業生や、卒業生の友だち、ボランティア等総勢100名近い参加者で、ビンゴ大会、ジェスチャーゲームなどを楽しんだ。

### 5. 3月15日 新宿校修了パーティー

新宿校の生徒・講師約20人が参加し、パーティーを開催し、メッセージ交換等をした。

### 6. 3月16日 卒業式

本校、新宿校のフリースクール修了生の門出を祝い、講師、ボランティア、現役の中학생や過去の卒業生など70人近くが参加した。





## 評価と課題

### ① たぶんかフリースクール（昼クラス・夜クラス）

4月は例年のように少人数授業から始まったが、8月の夏季集中講座以降、生徒数は回復した。生徒は主に東京、その他埼玉、千葉2県に在住している。埼玉県の高検入試は5教科受検1回、千葉県は5教科受検2回となり、埼玉県、千葉県での高校進学を目指す生徒にとっては、高校受験のハードルは高い。「たぶんかフリースクール」の都外受験生は、東京都への引っ越し、あるいはアルバイト先である東京都での昼夜間定時制高校受験を選択した。埼玉県受験を選択した生徒は1名であった。5教科受験は困難が多く、都外の県についての受験対策は、フリースクールではサポートしきれないためでもある。学びの場と居場所という目的では、ほとんどの生徒が3月末の卒業を迎えることができた。

中途退学、休学の生徒は数人おり、家庭の経済状況などが大きい。高校受験については、担任を始め先生方の学習面、精神面でのきめ細かいフォローがあり、成功している。ただほとんどの生徒の来日期間が1年未満であり、日本語指導の課題は大きい。今年度は、午前からの会話授業が始まり、授業時数が増え、成果と課題を検証していく必要がある。また、数学、英語などの教科についても短期間の中でさまざまなレベルの生徒に対応した授業展開をしていくことが求められており、計画や工夫、講師間の連携が大切になっている。

また、高校入学後の卒業生からの相談が増加している。「高校の授業が難解である。書類の書き方がわからない。友人関係に悩んでいる」など希望をもって入った高校での悩みも大きい。半年で退学する生徒も出ている。高校につなげることがたぶんかフリースクールの大きな目的であるが、高校入学後の生徒への具体的なフォローと卒業生の動向について把握することは、今後の課題である。

### ② ハートフル日本語適応指導事業

荒川区との連携による「ハートフル日本語適応指導事業（通室による初期日本語指導）」は3年目に入った。外国から来日して荒川区の中学校に編入した中学生が週4日、1日3時間「たぶんかフリースクール」に来て、集中的に日本語を学んでいる。さらに2008年に荒川区の小学校5年～中学3年の初期指導修了者を対象とした「ハートフル日本語適応指導事業（補充学習指導）」と合わせて、荒川区の中学生は最大5カ月の日本語指導を受けている。荒川区の中学校とも連携が取りやすくなり、補充学習指導への移行もスムーズで、初期指導を終えた生徒は100%補充学習指導を受けられることとなった。

2012年度は、5月から生徒数が一気に増えた。来日間近から、新しい環境に希望を膨らませ、積極的に日本語を学ぶ生徒と、不安をいっぱい抱えている生徒が通学してきた。日本語ができない生徒、そしてさまざまな悩みを抱えた生徒たちの対応に、ハートフルの先生方の指導はこれまでよりご苦労が多かった。しかし、中学校の先生方、保護者、そして多文化共生センター東京が三者一体となって生徒たちをサポートすることができた。

3月の学年末、それぞれの中学校に赴き子どもたちの様子等情報交換をして、子どもたちが学校で定着している様子を聞くことができた。また、通室が始まって最初の卒業生を迎えることとなったが、こちらも全員進学することができた。なお、来年度は荒川の本校が尾久の小台橋に移転する関係で、ハートフル事業のみが三河島にある荒川区の教育センターで学ぶこととなった。教室を間借りさせて頂く形となり、これまで以上に区の教育委員会との連携が必要となる。

### ③ 「虹の架け橋事業（定住外国人の子どもの就学支援事業）」（文部科学省の拠出を受けた国際移住機関（IOM）から受託）

虹の架け橋事業は、新たな3年間のスタートとなった。また、今年度より学齢超過生徒が積算対象となった。

その結果、これまで一日3時間の授業数は一日5～6時間に増えた。同年代の日本の友人がなく、買い物でもほとんど会話の必要のない子どもたちに、より早い段階で会話の授業をはじめることができた。「たぶんかフリースクール」では初めての会話の授業ということで、担当した先生にとって、新しい試みとなり、連日授業準備などで、負担も大きかった。一年を振り返り、会話の導入はより早いほうが効果的との前向きな意見が多く、来年度は日本語基礎クラスでも4月当初から始めることとなった。

また、東京での義務教育段階の不就学・不登校生徒については、来日間もない生徒を含めある程度定期的に生徒を紹介され、一定の学習期間を終えた後順調に中学校へ編入している。

### ④ 教育相談・入学相談

東京・埼玉・千葉からの問い合わせは、口コミ、あるいは他地域のボランティア教室や国際交流協会、学校等の紹介で電話をかけてくるケースが多い。特に子どもの来日前にあらかじめ保護者が相談に来たり、電話で問い合わせをしたりするケースが多くなっており、入学後の生徒は比較的落ち着いている。また、年々小学生の学習依頼の相談が増えているが、対応しきれず週一回土曜日の「親子日本語教室」への案内にとどまっている。ただ、小学校を卒業して3学期後にくる子どもたちは、中学入学前に日本語の基礎を学びたいという希望が多かった。「たぶんかフリースクール」としては受験期の厳しい時期であるが、非受験クラスをつくり対応した。

### ⑤ 日本語を母語としない親子のための多言語高校進学ガイダンス

ガイダンスは実施場所が増えた。文京・武蔵野・荒川は広域で、その他大田・八王子・品川は地域中心で計6回の実施となった。ガイダンス終了後にたぶんかフリースクール、CCS、ピナット、IWCなどのサポート団体につながるケースも増えた。ただ、開催地域が増えた分の負担増や財政的な裏付けなどの話し合いが引き続き必要である。また、生徒の母語の多様化や広報の方法の見直しなど、新しい課題もでてきている。

### ⑥ 子どもプロジェクト（土曜日の学習支援 15:30～17:30）

学習者、ボランティアともに毎回一定数が参加し、活動は安定している。日本語、英語や数学の支援に加え、入試における作文や面接の練習にも力を入れ、実のある支援に注力してきた。受験生だけではなく、中学1、2年生の参加も多く、子どもたちの居場所としても定着している。卒業した高校生が定期試験対策に通う例も多く、子どもプロジェクトに期待される役割も増えてきた。一方、ニーズが多様化する中で、例えば理数系や作文支援などの面では、ボランティア側の意向や得意分野と必ずしも一致しない場合も多く、さらに幅広いボランティアの確保が求められている。

また、「子どもたちが望む内容を臨機応変に」という基本的なスタイルは維持しながらも、後回しにしがちな「作文」や「数学」などは、ある程度計画的に学びを誘導する必要もあると感じている。さらにフリースクールの先生がたとの連携についても、より深めていきたい。

## 外国人の家族と子育て支援事業（ファミリーサポート事業）

### ■親子日本語クラス

小学生と親（大人）を対象に、ボランティアとともに、日本語や教科などを1対1で学習支援を行った。

日 時：毎週土曜日 13:00～15:00

参加者数：学習者 合計30人※1回の学習者は5～15人

ボランティア登録総数 約20人※1回の参加者は5～13人

### 子どもクラス

来日もない子どもたちには、日本語の基礎学習を行った。継続してクラスに通っている子ども達には、算数と国語を中心に、宿題を含めて教科学習をサポートした。また、最後の30分は、全体学習で作文やクイズ、ゲームなどを通して学ぶ時間をつくった。さらに、子どもたちがいろいろな経験が出来るよう、「田植え（群馬県板倉町）」、「お祭り（地域商店街）」、「クリスマス会」、「上野公園での課外学習」などイベントも積極的に行った。

### 親（大人）クラス

一人ひとりのニーズに合わせ、子育てや生活、仕事に必要な会話や漢字を中心とした読み書きなどをボランティアが1対1でサポートした。



みんなで田植え体験

## 評価と課題

4年目となる「親子日本語クラス」では、学習者が増加し年齢やルーツが多様化した。

子どもクラスでは、継続して通ってくる子どもがボランティアと慣れてくる中で距離感をうまく保てず、遊びと勉強のけじめをつけることに苦労することもあったが、一方で、新規学習者を気遣って、助言し手助けをする子どももいた。このように親子日本語クラスは、同じ境遇の仲間と出会え、安心して自分を出せる大切な居場所となっている。

本プロジェクトはこれまでは親を中心に、小学生以下の子どもも学べる場との位置づけだった。しかし、実態として小学生の学習者が一番多いことから、本年度から小学生の日本語・教科の学習支援を中心に、親も日本語を学び、生活面などの相談ができる教室という位置づけに変更した。

## 多文化共生のための人材育成事業

### ■ 講師派遣・研修受け入れ

国際交流協会、ボランティアセンター、行政、NPO、大学等などが行う研修会・講演・ワークショップに計 33 件講師派遣などを行った。

ボランティア・インターンの受け入れについては、2 大学経由で 3 名のインターンを受け入れた。

### ■ 多文化共生のためのボランティア講座等

ボランティア希望者を主対象とし、月 1 回ボランティア講座を実施し、毎回 8 名程度、年間で約 100 名の参加があった。

### 評価と課題

毎月 1 回のボランティア講座は昨年度よりも参加者が多く、ボランティアにつながるケースも多かった。何名かはその後もボランティアとして定着したが、何度か参加した後、来なくなってしまいうケースも多かった。今後はボランティアとして活動に参加後、どのように継続的に活動に関わってもらえるかが課題である。フリースクール講師、ボランティア共に長期的に団体の一員として関わっていただくために、団体内部での研修等も充実させていく必要がある。

## 多文化共生のための情報提供事業

活動と理念に対する認知を高め、多くの方に賛同・支援をいただくため、ニュースレター、web、ブログ、メールマガジンなどの媒体を使用し、広報活動を行った。

### ■ ニュースレター(みんぐる)

活動報告と多文化共生に関する記事を中心に年 4 回 500 部ずつ発行。紙面デザインをリニューアル。

### ■ web サイト

英語・中国語版の web サイト(一部)を作成。

### ■ ブログ・ツイッター・フェイスブック

日々の活動報告を、ブログ、ツイッター、フェイスブックで行った。

ブログ発行数：670 部 ツイッターフォロワー数：362 フェイスブック：354 いいね

### ■ メールマガジン(多文化 NEWS from Tokyo)

団体の活動内容等を配信(月 1 回・購読者：約 700 名)

### ■ メーリングリスト(多文化だより)

活動内容を報告する会員向けメルマガを M L 上に流し M L の活性化を図った。(月 1 回)

### ■ ドキュメンタリー「高校へ行きたい」の完成と上映

多文化ユース・フェスタでドキュメンタリー「高校へ行きたい」を上映した。

## 評価と課題

広報チームにプロボノのデザイナーを迎え、「みんぐる」のデザインをリニューアルし、より見やすい紙面となり反響も大きかった。英語と中国語版の web サイトを開設し、当事者にもより情報が届きやすくなり、入学の問い合わせにもつながった。また、昨年度から制作したドキュメンタリーが完成し、上映できた。今後、この作品をどのようにより多くの人々に見てもらおうかが課題である。一方、WEBサイトの更新作業ができる人員が少ないため更新が滞りがちであることと、各広報ツールの解析や「みんぐる」の配布先の検討などの積極的な広報活動が課題となっている。

## その他の特定非営利事業

### ■多文化ユース・フェスタ

日時：2013年3月23日（土）

場所：在日韓国YMCA スペースYホール

東京ボランティア・市民活動センター共催、UBS 特別協賛で、外国にルーツを持つ子どもたちが歌やダンス等を披露するイベントを開催した。本年度は、他地域の団体にも広く呼びかけ、外国人学校、他団体のNPO等から200名ほどの子ども達が参加し、より多様なルーツを持つ子ども達が、自分たちの可能性や存在をアピールした。また、多文化共生センター東京制作のドキュメンタリー「学校へ行きたい」を上映し、たぶんかフリースクールや子ども達を知ってもらおう場を作ることができた。



## 2012 年度 団体、企業等からの助成/寄付/協力

(敬称略 50 音順)

### ■イー・アクセス株式会社

- ・多文化共生センター東京についてのセミナー参加
- ・スポーツ大会 卓球・バトミントン
- ・一般寄付

### ■ギャップ財団

- ・たぶんかフリースクールの「キャリア教育プログラム」への助成
- ・荒川の本校と新宿 2 校の生徒 37 名がギャップジャパン本社で職場体験および社員の体験談
- ・荒川の本校と新宿 2 校の生徒 41 名がギャップジャパンの都内店舗で職場体験。

### ■子どもの人権連

「日本語を母語としない親子のための進学ガイダンス」への助成

### ■東京都高等学校教職員組合

「日本語を母語としない親子のための進学ガイダンス」への助成

### ■作業所ボンエルフ

- ・卓球台寄付

### ■セールスフォース・ドットコム

- ・キャリアデザイン 社員の体験談とワークショップ「夢のスクラップブック」作り
- ・子どもたちとの親睦会
- ・一般寄付

### ■日立製作所

- ・ボランティアセミナー第 4 3 回 多文化共生センター東京
  - ・多文化共生センター東京の概要紹介・子どもたちとの交流会・ドッジボール・バトミントン
- ・一般寄付

#### ■ボイスペディア

- ・当センターホームページへの広告掲載

#### ■UBS グループ

- ・たぶんかフリースクールに在籍する低所得家庭の子どもたちのための教育支援基金への寄付
- ・英語で高校受験するたぶんかフリースクール生徒への「英語でのエッセイと面接教室」の社員ボランティア
- ・外国にルーツのある大学生のインターンシップによる人材育成プログラムへの助成
- ・オフィスツアーと原美術館招待
- ・「多文化ユース・フェスタ」への特別協賛、運営協力
- ・一般寄付

# 2012 年度決算報告書

## 2012 年度 特定非営利活動に係る活動計算書

2012年4月1日から2013年3月31日まで

特定非営利活動法人 多文化共生センター東京

[税込] (単位:円)

科 目	金 額		
I 経常収益の部			
1 会費・入金収入			
会費収入	1,024,000	1,024,000	
2 事業収入			
(1) 外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業	32,326,200		
(2) 外国人の家族と子育て支援事業	109,560		
(3) 多文化共生に関する情報提供事業	22,905		
(4) 多文化共生に関する人材育成事業	1,176,104		
(5) その他非営利活動事業	318,270	33,953,039	
3 補助金等収入			
助成金収入	2,217,888	2,217,888	
4 寄付金収入	6,573,490	6,573,490	
5 受取利息収入	18,111	18,111	
6 基金からの取り崩し金	2,523,375	2,523,375	
経常収益合計			46,309,903
II 経常費用の部			
1 事業費			
(1) 外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業	34,180,446		
(2) 外国人の家族と子育て支援事業	122,290		
(3) 多文化共生に関する情報提供事業	375,871		
(4) 多文化共生に関する人材育成事業	1,490,513		
(5) その他非営利活動事業	0	36,169,120	
2 管理費			
給与手当	1,837,837		
法定福利費	560,823		
その他管理費	212,749	2,611,409	
3 繰入支出			
多文化子ども基金へ繰入	2,572,233	2,572,233	
経常費用合計			41,352,762
当期正味財産増減額			4,957,141
前期繰越正味財産額			9,291,999
次期繰越正味財産額			14,249,140



## 2012年度 特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

[税込] (単位:円)  
2013年 3月31日 現在

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未 払 金	2,242,899
現 金	1,289,822	前 受 金	333,105
普通 預金	17,111,117	預 り 金	361,011
現金・預金 計	18,400,939	流動負債 計	2,937,015
(売上債権)		<b>負債の部合計</b>	<b>2,937,015</b>
未 収 金	1,400,703	<b>正 味 財 産 の 部</b>	
売上債権 計	1,400,703	【基金1】	
(その他流動資産)		たぶんか子ども基金	1,232,228
立 替 金	11,870	基金1 計	1,232,228
仮払消費税	309,100	【基金2】	
その他流動資産 計	320,970	引越基金	2,460,042
流動資産合計	20,122,612	基金2 計	2,460,042
【固定資産】		【正味財産】	
(有形固定資産)		正味 財産	14,249,140
什器 備品	95,813	(うち当期正味財産増加額)	4,957,141
有形固定資産 計	95,813	正味財産 計	14,249,140
(投資その他の資産)		<b>正味財産の部合計</b>	<b>17,941,410</b>
敷 金	660,000		
投資その他の資産 計	660,000		
固定資産合計	755,813		
<b>資産の部合計</b>	<b>20,878,425</b>	<b>負債・正味財産の部合計</b>	<b>20,878,425</b>

## 2012 年度 特定非営利活動にかかる事業会計財産目録

2013年 3月31日 現在

[税込] (単位: 円)

《資産の部》		
【流動資産】		
(現金・預金)		
現 金	1,289,822	
普通 預金	17,111,117	
三井住友銀行	(12,660,870)	
三菱東京UFJ銀行	(2,916,888)	
ジャパンネット銀行	(933,748)	
郵便振替口座	(599,611)	
現金・預金 計	18,400,939	
(売上債権)		
未 収 金	1,400,703	
売上債権 計	1,400,703	
(その他流動資産)		
立 替 金	11,870	
仮払消費税	309,100	
その他流動資産 計	320,970	
流動資産合計		20,122,612
【固定資産】		
(有形固定資産)		
什器 備品	95,813	
有形固定資産 計	95,813	
(投資その他の資産)		
敷 金	660,000	
投資その他の資産 計	660,000	
固定資産合計		755,813
資産の部 合計		20,878,425
《負債の部》		
【流動負債】		
未 払 金	2,242,899	
前 受 金	333,105	
預 り 金	361,011	
流動負債 計		2,937,015
負債の部 合計		2,937,015
正味財産		17,941,410

### 監査報告書

特定非営利活動法人多文化共生センター東京の2012年度決算について、監査の結果、事業は適正に実施され、収支計算書は一般に公正妥当と認められる会計原則に基づいて作成されていることを認めます。

2013年 5月 25日

監事 鴻森大介

## 2012 年度役員

(50 音順)

代表理事	王	慧	謹
専務理事	飯田	秀	夫
専務理事	柴山	智	帆
理 事	李	炫	澈
理 事	風間	晃	
理 事	鈴木	江	理子
理 事	多田	佳	明
理 事	田村	太	郎
理 事	原田	麻	里子
理 事	福田	和	久
理 事	松尾	沢	子
監 事	鴻森	大	介

# 2013 年度事業計画

## 外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業

### ■ たぶんかフリースクール

#### 目的

日本の中学校に入れず、学ぶ場や居場所のない子どもたち（学齢超過生と中学卒業者）や、荒川区の小学校高学年及び中学生に対して、毎日通学し日本語と教科の勉強ができる学びの場と居場所を提供する。また、不就学や不登校の子どもたちを公立学校就学へつなげるための「虹の架け橋事業（定住外国人の子どもの就学支援事業）」（以下架け橋教室）文部科学省の拠出を受けた国際移住機関（IOM）より受託し実施する。最終的には高校進学につなげることを目的とし、外国にルーツを持つ子どもたちが教育を受ける権利を享受できる環境の実現をめざす。

#### 事業内容

学齢超過、不就学、不登校の子どもたちへの日本語及び教科学習の学習を保障するとともに、居場所としての役割も果たす。多様化する子どもたちのニーズに応じて、以下の通り多数のクラスを開講する。

#### ◆ たぶんかフリースクール本校

**10：00～15：50 1日5時間・週4日**

主に学齢超過生及び母国で中学を卒業した生徒、義務教育段階の不就学や不登校の子どもたちを対象。

内容：日本語・教科の学習、受験サポート、居場所の提供

※義務教育段階の不登校・不就学生徒対象クラス：

文部科学省の拠出を受けた国際移住機関（IOM）「虹の架け橋教室」を受託し、運営。

※学齢超過生及び母国で中学を卒業した生徒対象クラス：

週20時間のうち、12時間は「虹の架け橋事業」で運営。

#### ◆ たぶんかフリースクール新宿校

**9：00～13：00 / 15：00～18：50（8月以降開講予定）1日4時間・週5日**

主に学齢超過生及び母国で中学を卒業した生徒、義務教育段階の不就学や不登校の子どもたち、昼間の中学校に通う中3生を対象。

内容：日本語・教科の学習、受験サポート、居場所の提供

※義務教育段階の不登校・不就学生徒対象クラス：

文部科学省の拠出を受けた国際移住機関（IOM）「虹の架け橋教室」を受託し、運営。

※学齢超過生及び母国で中学を卒業した生徒対象クラス：

週20時間のうち、12時間は「虹の架け橋事業」で運営。

※8月以降生徒が増えた場合、15：00～18：50のクラスを開講し、より多くの生徒を受け入れ体制を作る。15：00～18：50の後半の2時間は昼間の中学校に通う中学生の高校進学サポートも行う。

## ◆ 荒川区ハートフル日本語初期指導 荒川区「ハートフル日本語適応指導対象」

実施場所：荒川区立教育センター内教室

### 通室による日本語初期指導 9：00～12：00 週4日 2ヶ月間

荒川区内の中学校に通う、「ハートフル日本語適応指導（通室による初期日本語指導）」対象生徒

内容：初期日本語の指導

### 初期日本語修了後の補充指導 17：30～20：00の間の2時間 週3日 3ヶ月

荒川区「ハートフル日本語適応指導（補充学習指導）」対象者（小学5年生～中学3年生）

内容：初期日本語終了後の日本語、または教科の指導

## 事業目標

小学校高学年、中学生、学齢超過、不就学、不登校の子どもたちへの日本語及び教科学習の学習を保障するとともに、居場所を提供する。不登校・不就学の子どもたちは公立小中学校への復学をめざし、高校進学を希望する生徒は高校につなげることを目指す。

## ■ キャリア教育プログラム

ギャップ財団様からご支援を受け、たぶんかフリースクール生徒が将来の夢を考え、次の進路につなげる「キャリア教育プログラム」を実施する。このプログラムにより、担任を採用し、職業体験などのキャリアイベントを行うとともに、生徒や保護者との面談（10月二者面談・12月三者面談）、進路に関する作文のほか、高校見学や説明会への生徒の引率、日々の生徒対応、受験指導などきめの細かいサポートを行う。また上記以外にも企業との協働でキャリアイベントを開催し、将来や進路について考える機会をつくる。

## ■ 多文化企画行事

フリースクール講師・ボランティア、企業等のご協力を頂き、校外学習やイベントなどの行事を行う。

## ■ 教育・進学相談

当センター及び進路ガイダンス実施時に、年間100件程度の教育、進学に関する相談に対応し、外国にルーツを持つ親子へのサポートを行う。

## ■ UBS 教育支援基金・たぶんか子ども基金

「UBS 教育支援基金」「たぶんか子ども基金」により、経済的な理由からたぶんかフリースクールに通いたくても通えない生徒へ授業料の一部を支援することで、より多くの子どもたちに学ぶ機会を提供する。本年度は、自助努力で年間50万円を目標にクラウドファンディングへの参加等広く個人の支援も呼びかける。

## ■ 子どもプロジェクト

### 目的

以下の2つの活動を柱とし、子どもたちへの力づけ（エンパワメント）を行っていく。

### 事業内容

#### ◆ ボランティアによる学習支援 土曜日：15：30～17：30

ボランティアベースでの教科と日本語の学習支援を週1回行う。基本的にはボランティア中心の運営で、マンツーマンによる指導を行う。

#### ◆ 子どもたちの居場所づくり

学習以外でも、同じ状況の子ども同士が交流する居場所づくりを目指す。

### 事業目標

年間40人程度の子どもに対して、ボランティアによる教科支援と居場所づくりを行う。

## ■ 日本語を母語としない親子のための高校進学ガイダンス

### 目的

日本の教育事情に不案内、日本語を母語としない親子のために、日本の高校についての進路・進学・教育制度全般の理解を深めてもらうことをめざす。

### 事業内容

東京都内で広域対象・地域中心に分け、多言語による逐次通訳の体制を組み、高校進学についての説明会と教育相談を年6回実施する。通訳は英・中・韓・スペイン・タガログ・タイ語の6言語を予定。「多文化共生センター東京」「カトリック東京国際センター」「多文化共生教育研究会」「CCS 世界の子どもと手をつなぐ学生の会」「武蔵野市国際交流協会」「ピナット」「八王子国際協会」「IWC」「OC Net」「レガートおおた」「青少年自立援助センター」の11団体で実行委員会を構成し、うち2回の事務局を当センターが担う。また、今年度は助成金を得て、新しくミャンマー語とネパール語のガイドブックを作成する。

### 事業目標

合計300名程度の日本語を母語としない親子に対して、進路、教育制度についての情報を提供する。ガイダンス後、個別でのフォローを実行委員会の団体が行い、高校進学までのサポートを行う。

## 外国人の家族と子育て支援事業（ファミリーサポート事業）

### ■親子日本語クラス

#### 目的

外国にルーツを持つ小学生以下の子どもや保護者を対象に日本語習得や学習を支援する。日本語を中心に校外授業を実施するなど多面的にサポートする。

#### 事業内容

##### ◆親子日本語クラス 土曜日 13:00～15:00

対象：外国にルーツを持つ小学生と親（大人）

「たぶんかフリースクール」生徒の保護者など、小学生以上の子どもを持つ親や、子どものいない大人も含む

内容：ボランティアとの1対1の学習や全体学習を通して、日本語や教科の学習支援を行うとともに居場所づくりを目指す。今年度は教室の移転にともない、近隣地域への広報活動を積極的に行うことで、サポートを必要としている子どもや大人に学習の場を提供する。また、親が仕事で忙しい子どもが多いので、様々な体験ができるようアクティビティを行う。

#### 事業目標

外国にルーツを持つ子ども10人、大人3人程度を目標に、ボランティアによる日本語や教科の学習支援と居場所づくりを行なう。

## 多文化共生のための人材育成事業

#### 目的

「多文化共生」及び「年少者の日本語教育」に関連する研修への講師派遣、活動に関わるボランティアやフリースクール講師を対象とした勉強会、ボランティア講座等により、多文化共生社会を担う人材育成を行う。

#### 事業内容

##### ◆講師派遣

国際交流協会や行政などが行う多文化共生関連の研修に対して40件程度の講師の派遣を行う。

##### ◆多文化共生のためのボランティア講座

多文化共生センター東京の活動やボランティア活動に関心のある方を対象に、月1回程度の講座を行う。内容は基礎的な知識などを中心に行う。

##### ◆ボランティア・講師勉強会

活動に関わるボランティアやフリースクール講師を対象に、多文化共生や指導法等に関する勉強会を行う。

## 多文化共生に関する情報提供事業

### 目的

活動と理念に対する認知を高め、より多くの方の賛同・支援を得るため、web、ブログ、ツイッター、紙ベースの広報誌等多様な広報媒体を使用し、広報活動を行う。当センターの活動と共に外国にルーツを持つ子どもたちの状況や多文化共生への関心を広める。

### 事業内容

#### ◆Web

昨年度完成したリニューアルサイトの更新を定期的に行い、当センターの活動への共感を広げる。また、進路の手引きなど多文化が持つ受益者や支援者に有益な情報を積極的に公開していく。

#### ◆ブログ・ツイッター・フェイスブック

ブログ、ツイッター、フェイスブックを活用し、当センターの活動報告を頻繁に行う。

#### ◆メールマガジン(多文化 NEWS from Tokyo)

外国人関係ニュース、イベント、当センターの活動内容などのメルマガを原則毎月配信する。

#### ◆メーリングリスト(多文化だより)

活動内容を報告する会員向けメルマガを毎月M L上に流す。

#### ◆ニュースレター(みんぐる)

当センターの活動報告を中心に、多文化共生に関するテーマの広報誌を年4回発行し、配布場所や方法の検討を行い、平均500部発行配布する。

## その他の特定非営利事業

### ■ 多文化ユース・フェスタ

今年度も東京ボランティア・市民活動センター様との共催、UBS様との特別協賛で、外国にルーツを持つ子どもたちが表現活動を通して自己表現できる場をつくる。

### ■ その他

校舎移転に伴う環境整備をする。



# 2013年度予算

## 2013年度 特定非営利活動に係る活動予算書

2013年4月1日から2014年3月31日まで

[税込] (単位:円)

科 目	金 額	
(経常収支の部)		
I 経常収入の部		
1 会費・入金収入		
会費収入	1,100,000	1,100,000
2 事業収入		
(1) 外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業	33,118,000	
(2) 外国人の家族と子育て支援事業	0	
(3) 多文化共生に関する情報提供事業	20,000	
(4) 多文化共生に関する人材育成事業	1,000,000	
(5) その他非営利活動事業	350,000	34,488,000
3 補助金等収入		
助成金収入	4,150,000	4,150,000
4 寄付金収入	4,000,000	4,000,000
5 受取利息収入	2,000	2,000
6 基金からの取り崩し金	2,424,000	2,424,000
当期収入合計		46,164,000
II 経常支出の部		
1 事業費		
(1) 外国にルーツを持つ子どもたちのための教育事業	38,359,552	
(2) 外国人の家族と子育て支援事業	30,000	
(3) 多文化共生に関する情報提供事業	450,000	
(4) 多文化共生に関する人材育成事業	1,090,000	
(5) その他非営利活動事業	0	39,929,552
2 管理費		
給与手当	2,280,000	
法定福利費	287,448	
健康診断費	125,000	
合宿費	150,000	
その他管理費	250,000	
予備費	2,000,000	5,092,448
3 繰入支出		
多文化子ども基金へ繰入	2,500,000	2,500,000
当期支出合計		47,522,000
当期収支差額		-1,358,000
前期繰越収支差額		14,249,140
次期繰越収支差額		12,891,140

## 2013 年度役員

(50 音順)

代表理事	王	慧  謹
専務理事	飯田	秀  夫
専務理事	風間	晃
理  事	李	炫  澈
理  事	伊東	千  恵
理  事	佐藤	均
理  事	柴山	智  帆
理  事	鈴木	江  理子
理  事	多田	佳  明
理  事	田村	太  郎
理  事	栞木	典  子
理  事	福田	和  久
理  事	松尾	沢  子
理  事	若山	裕  司
監  事	鴻森	大  介





認定NPO法人

多文化共生センター東京

Multicultural Center TOKYO

認定 NPO 法人多文化共生センター東京

〒116-0011 東京都荒川区西尾久 6-9-7 旧小台橋小 3 階

TEL/FAX : 03-6807-7937 [tokyo@tabunka.jp](mailto:tokyo@tabunka.jp)